

補助事業こそ「命」

「補助」事業という表現が、個人的にはあまり好きではありません。辞書によれば「足りないところを補って、助ける」とありますが、何となく「補助を受ける」側に対する、「補助する」側の目線の高さ、上からの視線を感じるからです。とは言え、変わるべき適切な言葉も見当たらないので、このまま使いますが、競輪・オートレースにおける補助事業とは、JKAと補助先とが一体となっていくう社会貢献活動であると、私は考えています。

外形的に見れば、競輪・オートレースが刑法の禁止する「賭博罪」に該当することは、誰の目にも明らかです。その点は競馬、ポートレースも同じなのですが、それが社会的に許されるのは、競輪の場合でいえば、自転車競技法が「自転車その他の機械の改良……並びに体育事業その他の公益の増進を目的とする事業の振興に寄与するとともに、地方財政の健全化を図る」という目的のためなら、自転車競走⇨競輪を実施してよいと定めているからです。要は補

助事業によって社会的に貢献すること、地方財政に寄与することを条件に、本質的には賭博である競輪の違法性がなくなるということなのです。

このことからすれば競輪・オートレースにおける補助事業とは、競輪・オートレースの社会的正当性を担保するものであり、競輪・オートレースに付随して行われる「付録」ではなく、競輪・オートレースの「命」そのものなのだと思います。補助に使われるお金はJKAのものではありません。車券を買ってくださったお客様から一時、預かっているという性格のものであります。それをできるだけ有効に、効率的に使っていただけるよう、補助先の諸団体と共同歩調で、着実に進みたいと考えています。競輪・オートレース事業の収益悪化に悩む競輪・オートレース施行者・自治体首長の中には「(補助金の原資である) JKAへの交付金を減らせ」との声も一部にあるようですが、「命」である補助事業はこれからも守り、育てていこうとの決意と信念は、JKA職員共通のものであります。

公益財団法人JKA会長 石黒克巳



目次

会長エッセイ	2
補助事業の概要	4
袖ヶ浦市立根形中学校	6
工学院大学グループ	8
一般財団法人九州産業技術センター	10
一般社団法人日本機械工業連合会	11
群馬県立産業技術センター	12
補助事業の手続き	13
NPO法人 森のライフスタイル研究所	14
公益財団法人 ジョイセフ	16
NPO法人 高等専修教育支援協会	17
公益財団法人 ちば県民保健予防財団	18
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター	19
福祉車両の実例	20
ジャパンカップサイクルロードレース	22
公益財団法人 福島県労働保健センター	23
平成25年度補助事業一覧	25
ホームページについて	26
お問い合わせ先	27



RING!RING!
プロジェクトについて

補助事業

● 補助事業の概要

地方自治体が開催する競輪・オートレースの売上金の一部は、モノづくり、スポーツ、地域社会への貢献など、さまざまな分野の事業に役立てられています。



公益事業振興 補助事業



公益の増進



地域振興



社会福祉の増進

非常災害の
援護



機械工業振興 補助事業

振興事業補助



研究補助





新世紀未来創造プロジェクト
落花生や生花を栽培
地域が応援する「農の授業」
 袖ヶ浦市立根形中学校



若手農業者が先頭に立って農作業

房総半島・内房のほぼ真ん中に位置する千葉県袖ヶ浦市。農地と住宅地が入り混じる、濃い緑に包まれた市立根形中学校（生徒数142人）では、JKAの補助を得て、落花生と生花の栽培を技術科の授業に取り入れて、3年目を迎える。

25年度は、学校の隣にある農家から借りた畑で、1年生が落花生、2年生が菜の花を栽培。3年生は、プランターでポーチミスカ、マリゴールドなどを育てている。これまでも、収穫した落花生をイベントなどで無料配布したり、鉢植えにした花を、近くの保育園や老人施設を訪ねてプレゼントしたりして、学校と地域のふれあいに役買ってきた。

今年から、現役の若手農業者2人が、作業の指導を引き受けた。仕事や進学の出来が違ってくる。

落花生も花も、房総を代表する農産物。「地元の産物や、それを支えている元気な若い先輩の姿を身近にすることは、何よりも生徒にとって将来像の参考になります」と教頭の林健司先生は、授業の枠を超えた成果を語る。



手を取って苗の植え方を教える

地元の農業について事前に学習する

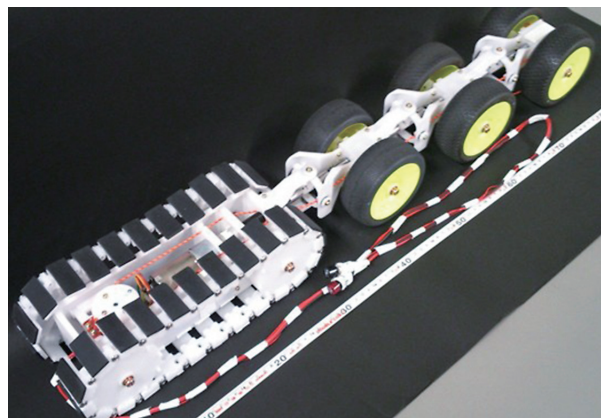


地域のボランティアが手伝って花を栽培



収穫した落花生を無料配布する生徒たち

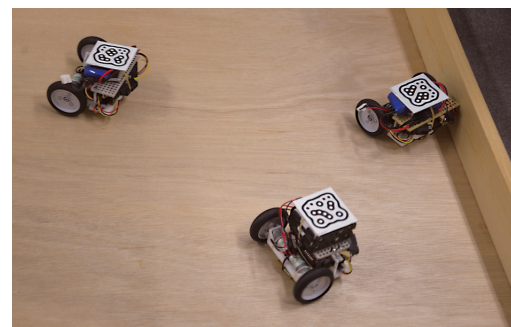
北京航空航天大学でのフェンルーカップ発表風景。
教授陣の前でデモをし入賞した学生たちは、
「非常にうれしかった」という



蛇型関節などで走破性を高めた
新型の小型レスキューロボット試作機



ライトテーブル上のマークを手で動かし、
ロボットをコントロールする仕組み



マークの動きに合わせて3台のロボットが
配置を変えるコントロールの実験



研究補助 軽く素早くから、操作簡単、自作も可能 改良重ねる小型レスキューロボット

工学院大学グループ

地震津波などの災害現場で、がれきに埋もれた被災者を見つけるための小型レスキューロボットを研究開発している工学院大学工学部の見崎大悟准教授と研究室の院生や学生たち。23年度から3年連続でJKAの補助を受け、年ごとにテーマを絞って基礎研究にいきんでいる。

23年度は、広範囲に多数の台数を投入できるよう、安価で小さく軽く素早く動くロボットを試作した。がれきの中を自律的に動くための、昆虫をヒントにした脚の仕組みが特徴だった。24年度は、多数のロボットを1人または数人でコントロールするための技術を進化させた。モニター画像上のロボットの位置を示すマークを手で動かすと、実物がその通りに動く仕組みや、ロボット同士の無線通信が効率よく働く配置の研究も行った。それらの成果が、2013年5月、中国

の北京航空航天大学で開かれた第23回フエンルーカップ学生科学技術協議会で、スマートシティ部門の2位に輝いた。

25年度は、ロボット普及のため、普通の人自作する「パーソナル・ラブリケーション」を模索する。3Dプリンターなどを使えば、遠からず可能になるといふ。そのための知的財産権やリスクマネジメントなどの課題を、東京経済大学と連携して研究している。東日本大震災では、ロボットが災害救助などに働く場面は少なく、運用への慣れの不足、実用ロボットがビジネスに乗らないこと、法律上の問題などが指摘された。それらの壁を破る挑戦でもある。



常に頭の位置が確認できるICタグのついたヘルメット



機械工業振興
肥育中に霜降り具合を推定
日本一の和牛作りに貢献

一般財団法人九州産業技術センター

平成22年度JKAの補助を受け、地域の新技术やノウハウと社会の需要を結びつける（二財）九州産業技術センターのイノベーション推進事業から、おいしい和牛作りに貢献するシステムが誕生した。「しもふりマスター」と呼ばれ、肥育中の牛の肉質・霜降り具合を、超音波エコー装置とパソコンソフトなどで解析し、高精度に推定する。全国に数人とい

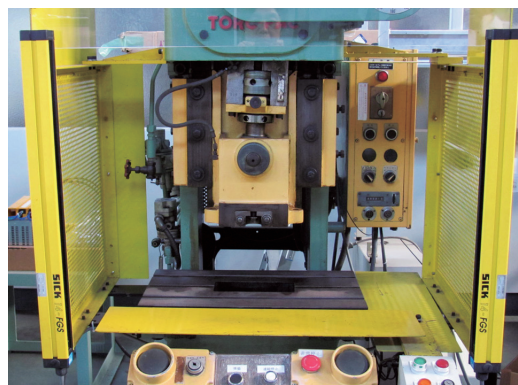
う高度専門判定技術者の技に匹敵する。屠殺以前に肉質が分かるので、飼料や出荷時期の調節、コスト管理と高品質牛の安定供給につながる。（独）産業技術総合研究所と民間企業、佐賀県、長崎県が参加して開発。試験的に利用した長崎牛が、平成24年10月の「全国和牛能力共進会」で内閣総理大臣賞（肉質日本一）に輝いた。



肉用牛業界待望のシステムとうたった「しもふりマスター」



「しもふりマスター」を使って生きた牛の肉質を調べる



安全を確保する光学式センサーと両手ボタンがったプレス機。横からの侵入を黄色い柵で防いでいる



危ない場所に柵をしたり、作動中に近付けないよう扉を設定したり——製造業の現場で機械から生じる危険を精査し、物理的に人を隔離するのが、日本機械工業連合会が普及を進めてきた「リスクアセスメント」の考え方。「ヒヤリ・ハット体験をもとに人が気をつける」だけでない、積極的安全

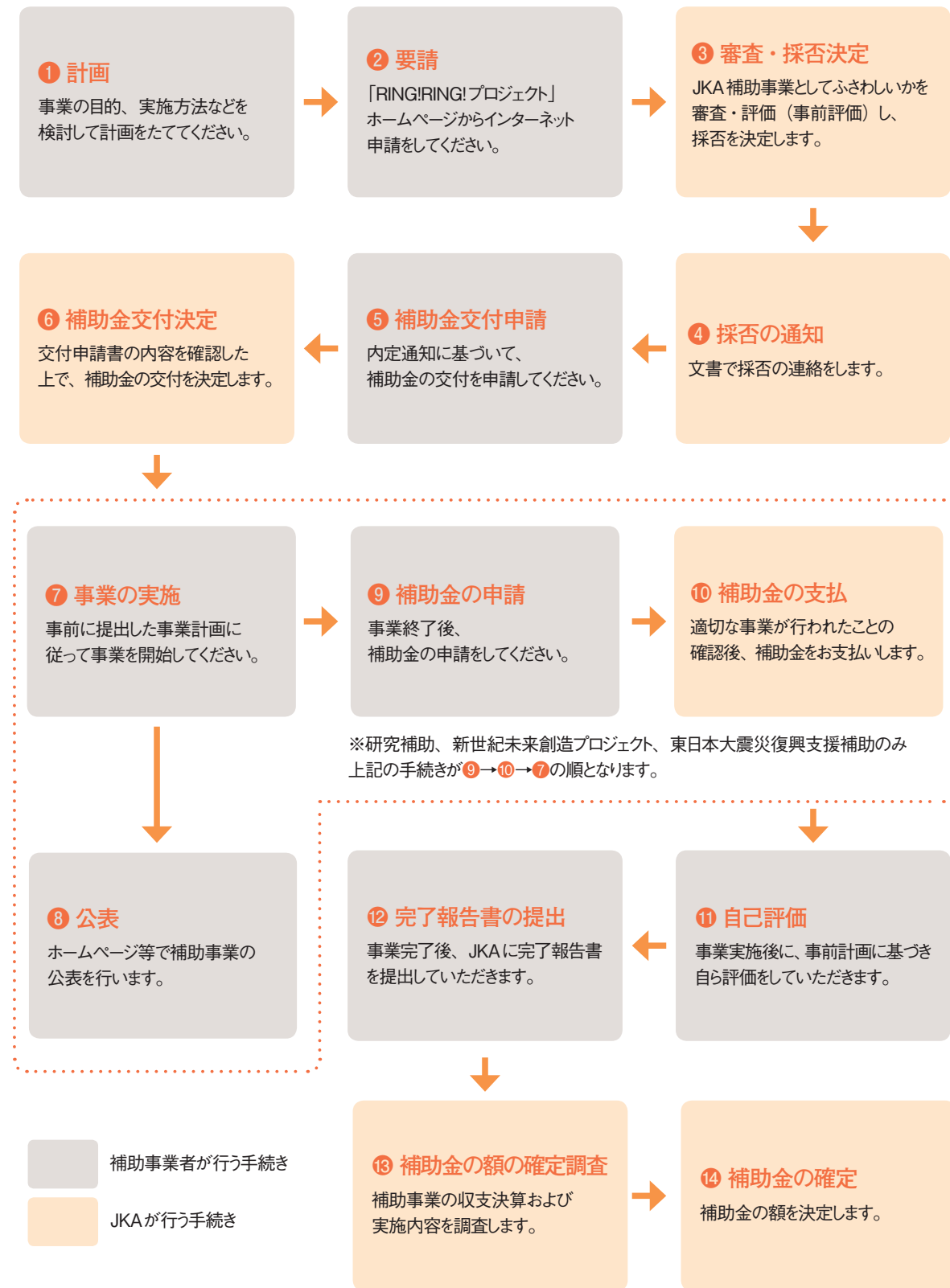
策だ。製造業の労働災害死者が、2000年度の約2000人から、08年度の約1300人に減少するのに寄与した。同会は、国際規格ISOの審議団体として安全規格を開発・提案し、国内ではJISの原案を作成。現在はJKAの補助で、機械システムの安全確保などを研究している。

機械工業振興
リスクアセスメントの考え方を普及し
製造業での労災減らしに貢献

一般社団法人 日本機械工業連合会

補助事業の手続き

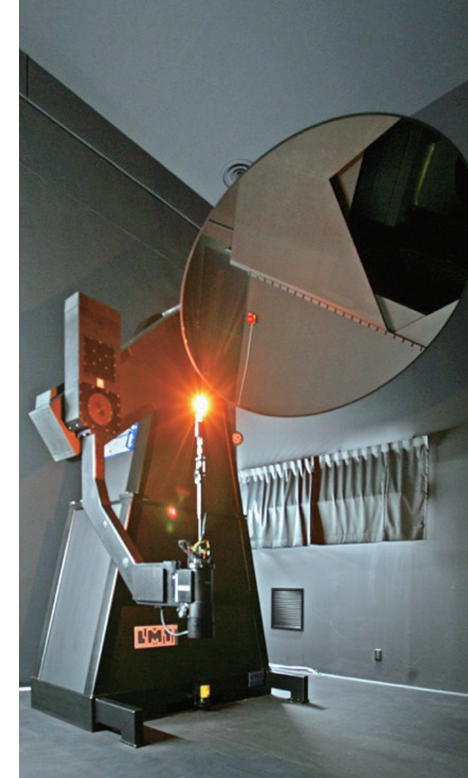
補助事業の手続きは以下のとおりです。



機械工業振興

光のエネルギーや広がり測定 新しいLED照明の開発を支援

群馬県立産業技術センター（東毛産業技術センター）



大型配光測定システム。光源の光をミラーで反射、20メートル近く離れた受光部で計測する

群馬県立産業技術センターの附属機関・東毛産業技術センターは、自動車関連機械金属工業や電気機器、輸送機器などを扱う地元の中小企業を支援している。2011年度JKA補助事業で導入されたのが、照明器具を設計したり設置したりする際の基礎的データを得るための「全光束測定システム」と「大型配光測定システム」。LED照明開発

に参入する企業が増えているのに対応した。前者は、照明器具から出る光エネルギーの総量を測り、蛍光灯のLED化などに役立つ。後者は、光の空間的広がりや把握し、照明の効率化を図る際に有効。導入以来、1年間で両システム合わせて332件の依頼試験を行い、自動車用前照灯やデザイン性を重視した照明器具の開発につなげている。



全光束測定システム。二つに割れるように開く球の中心に照明をセットし、閉じて計測する



震災復興支援 50年先の防風林を見つめて 木を植えるたくさんの人々

NPO法人 森のライフスタイル研究所

ある晴れた春の一日、
100人を超える人々が、
木を植えている。

老若男女、就学前のお嬢さん。
東京の人、長野の人、インドの人、地元千葉の人。

一昨年の東日本大震災の日。
千葉・九十九里浜の帯では、
海岸の松林が津波を受け止め集落を守った。
そのかわり木々は、
倒れたり塩害で枯れたり。

あの緑を取り戻そう。
NPOの呼びかけに応え、
ボランティアが集まった。
おぼつかない腰つきもいれば、
手慣れた軍手・長靴姿も。

「私たちも液状化の被害者。
お役にたてれば」と、
グループで参加した会社員。
「いつも海岸を使わせてもらっているから」と、
ライフセーバーの若者たち。

植えられた2200本の幼樹。
5年間は下草刈りなど手入れが必須。
一行の中の少女に、みんなの視線が集まる。
「森を見届けるのはあなただね」。
そう、海岸がもとに戻るには50年かかるから。



注：NPO法人森のライフスタイル研究所は、森づくりを目的とするボランティア団体。東日本大震災を忘れないために、千葉県の津波被災地・山武市蓮沼殿下海岸で、保安林の再生事業を行っている。今年3月、JKAの補助を受け、地域固有の株で塩害に強いクロマツを植樹した。「ボランティアに継続的に関わってもらうには楽しくなければ。植樹帰りにバーベキューや地元見学コースも用意します」と竹垣英信・NPO代表理事。おかげで若者や女性の参加者も多い。



毎年、会場は富士山麓



公益事業振興 再生自転車が途上国で活躍 妊産婦の命を守る足に 公益財団法人 ジョイセフ

ジョイセフは、途上国の妊産婦や女性の健康や命を守る援助活動を行う、日本の民間団体だ。支援先の団体と協力し、地域を回って妊娠・出産の指導に当たる保険推進員を育成。その欠かせぬ足が、日本から送られるリサイクル自転車だ。医療機

関と住民を結ぶ足にも事欠く環境で、荷台に妊産婦や助産婦を乗せて運ぶこともできる自転車の威力は、想像以上に大きい。
放置自転車を撤去・回収している自治体と連携し、JK Aなどの補助を得て、2012年度は、カンボジア、

タンザニアなどに、約2000台を送った。職員たちは「日本では考えられないくらいいボロボロの自転車が、使われていました。現地では、いくら送っても足りないくらいだと思います」と語っている。



支援先に到着した自転車。
(写真上からベナン、アフガニスタン、ガーナ)

選手宣誓で体育大会がスタート



トラックを全力疾走する選手たち

中学卒業後、具体的な職業を目指す専門教育や、高等学校の教育を受けられる学校が高等専修学校だ。調理師、准看護師などの資格を取るコースをはじめ、ビジネス、工業、社会福祉、服飾芸術など多様な分野を学ぶ課程に、全国で3万9000人余り（平成24年度）が在籍。高校中退者、不登校経験者などの、学びを応援する役割も担っている。施設や学習形態

がまちまちで、一般の高校に比べ、対外試合などスポーツの環境に恵まれていない。1991年、スポーツを楽しみたい生徒たちの目標として、「全国高等専修学校体育大会」が4種目でスタート。大会プログラムの制作費などにJK Aの補助を得て、22回目の2012年は、男女の自転車、陸上、卓球など21種目に、19校から参加者約705人を数えた。

公益事業振興 職を目指し学ぶ生徒が スポーツで交流

NPO法人 高等専修教育支援協会

東京芸大で声楽を学んでいる橋本夏樹さん



網川泰典さんは、コンクール入賞や海外演奏歴が豊富な一線のフルート奏者



公益事業振興

視覚障害の音楽家にスポットライト
ハンディを越える挑戦の場に

社会福祉法人視覚障害者支援総合センター
「競い合い、助け合うコンサート」

2012年の師走、東京都杉並区で開かれた恒例のコンサート、「羽ばたけ視覚障害音楽家たち」。大学進学や就労など、視覚障害者の社会参加を後押ししてきた「視覚障害者支援総合センター」（高橋實理事長）の企画で、この年10年目を迎えた。

鍼灸や箏楽くらいしか視覚障害者の職業が認められていなかった時代に、大学進学の道を切り開き、点字新聞の記者として働いてきた高橋理事長は、コンサートの趣旨をこう語る。

「オーディション、コンテスト、演奏会、講師の募集などの情報も、目が見えなければ簡単にキヤッチできません。対等のポジションに立つために、『障害者として』のチャレンジの機会が必要です。哀れみや同情を得るためではなく、切磋琢磨するために」



公益事業振興
モニター表示で体位の変換がスムーズに
耳の不自由な人にやさしい検診車

公益財団法人ちば県民保健予防財団

千葉県内で年間約12万人の胃がん検診や15万人以上の乳がん・結核検診をしている（公財）ちば県民保健予防財団は、平成24年度JKAの補助で「耳の不自由な人に配慮した胃部X線TV検診車」を導入した。聴覚障がい者は受診中、体位を変えるためのX線技師の指示が聞こえないため、検診が難しかった。導入された検診車では、患者の正面、両側、天井に計4台のビデオモニターを設置し、日

本語、手話、人形を使った体位表示で指示を伝達する。これにより聴覚障がい者の検診がスムーズになり、社会の高齢化などで増える難聴者への対応も改善された。同財団では検診の様子をDVDに作成し県内54市町村に配布、聴覚障がい者や難聴者の受診を大幅に増やそうとしている。



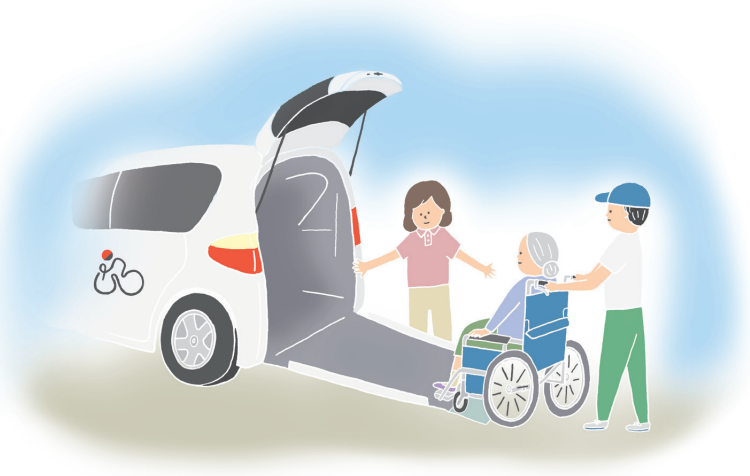
受診者は顔の脇などに設置されたモニターで、体位変換の指示を確認できる



ちば県民保健予防財団に導入された、耳の不自由な人もやさしい胃部検診車



送迎車



車いす仕様 (リフト式)



車いす仕様 (スロープ車)

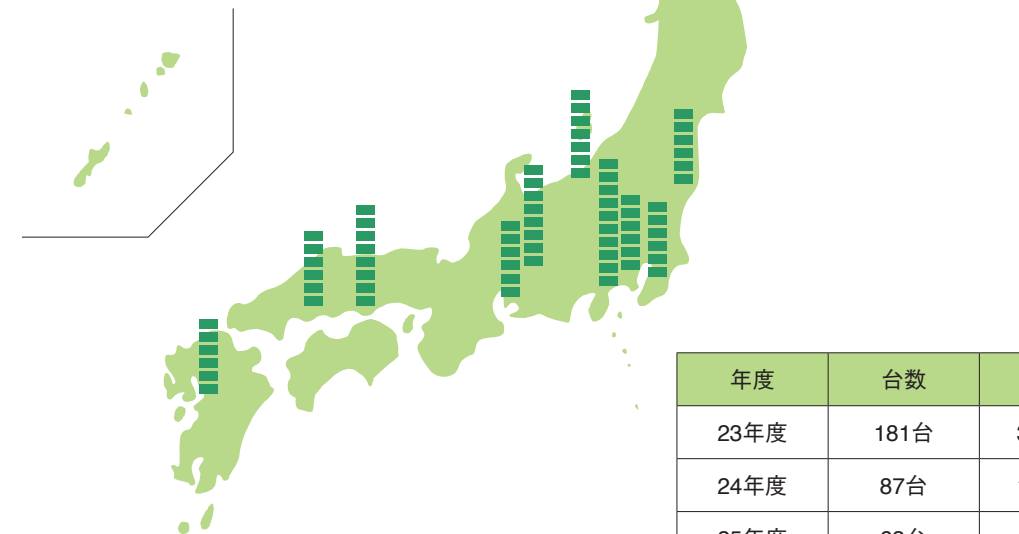


訪問入浴車

		25年度	24年度	23年度
移送車I	助手席リフト式	2件	12件	13件
移送車II	車いす仕様 (スロープ式)	13件	17件	35件
移送車III	車いす仕様 (リフト式)	23件	39件	91件
移送車IV	送迎用	17件	14件	37件
訪問入浴車	入浴サービス 設備付	8件	5件	5件

福祉車両の整備状況 (平成23~25年度)

件数	都道府県
10件	神奈川県
8件	岐阜県・岡山県
7件	新潟県
6件	福島県、千葉県、東京都、愛知県、広島県、熊本県



年度	台数	金額
23年度	181台	3.2億円
24年度	87台	1.6億円
25年度	63台	1.2億円

3年間で延べ331台、6億を補助



福祉車両の実例
公益事業振興



車いす仕様 (助手席リフト式)



ホールボディカウンター本体

「福島県労働保健センター」では東日本大震災後、放射線が及ぼす健康被害への不安を抱える県民のため、体内の放射性物質の量を測定する「内部被ばく検査」に取り組んでいる。2012年に補助事業のサポートを受け、新たに2台のホールボディカウンターを増設しました。県からの委託を受け、ホールボディカウンターを搭載した巡回バスと、施設内の3台をフル稼働させ、2012年12月までに約2万人を測定した。センターの職員は「放射線に対する不安の払しょく」という意味でも、この機器はとても大きな役割を果たしている」と、話します。



公益事業振興
内部被ばくを測定する
ホールボディカウンターを増設

公益財団法人 福島県労働保健センター



公益事業振興
日本最大級の
自転車レースの開催

ジャパンカップサイクルードレース

1990年にアジア初のUCI世界選手権が日本で開催された際、ロードレースの舞台となったのが宇都宮。その記念大会として創設されたのがジャパンカップサイクルードレースだ。

この大会では地元の競輪選手たち

が報道関係者やゲストを乗せるレース車両のドライバーを務めたり、運営面での協力など、競輪界をあげて様々なサポートが行われている。このように、競輪が支援する自転車レースやイベントは数多くあり、競技者の育成や自転車人口の拡大に役買っている。



パレードにはガールズケイリンの選手たちも参加



クリテリウムを走る競輪選手



世界の第一線で活躍する選手たちの本気の勝負を間近で見られる大会

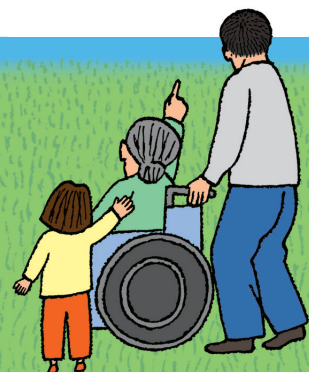
平成25年度補助事業一覧

機械工業振興補助事業一覧表

2013年4月1日現在

事業区分	件名・研究名	事業者名・内定件数	内定金額
重点事業		65件	1,002,651
(1) 機械工業における安全・安心に資する取り組みに関する事業のうち、特に人命事故に関わるもの	レーザ機器の安全・安心に関する調査研究補助事業	(一財)光産業技術振興協会	1,603
(2) 機械工業における安全・安心に資する取り組みに関する事業	ICT社会における安全・安心確保に関する補助事業	(一財)コンピュータ教育推進センター 他4件	59,001
(3) 機械工業の国際競争力強化に資する標準化の推進に関する事業	超電導国際標準化の推進に関する事業	(公財)国際超電導産業技術研究センター 他11件	45,509
(4) 公設工業試験研究所等における機械等設備拡充補助事業	公設工業試験研究所等における機械等設備拡充補助事業	北海道 他46件	896,538
一般事業		25件	102,366
(1) 機械工業におけるものづくり支援に資する事業	中国地域のものづくり高度化支援補助事業	(公財)ちゅうごく産業創造センター 他13件	60,764
(2) 機械工業における地域の中堅・中小機械工業の振興に資する事業	東北機械部品産業のアジア展開への指針策定等調査研究補助事業	(一財)国際貿易投資研究所 他6件	22,228
(3) 機械工業における環境、医療・介護分野等の振興	水資源の有効活用のための研究開発等補助事業	(一財)造水促進センター 他3件	19,374
個別研究 合計43件	超微量液体制御マイクロデバイスの開発補助事業	東北大学大学院工学研究科 他42件	126,163
若手研究 合計25件	アクアドライブシステムのしゅう動部材に及ぼす水中溶剤成分の弊今日補助事業	岩手大学工学部 機械システム工学科 他24件	24,966
合計		158件	1,256,146

(単位:千円)



公益事業振興補助事業一覧

2013年4月1日現在

事業区分	件名・研究名	事業者名・内定件数	内定金額
重点事業		60件	1,005,522
(1) 自転車・モーターサイクル	ツール・ド・北海道2013の開催	(公財)ツール・ド・北海道協会 他33件	740,238
(2) 文教・社会環境	朗読劇「この子たちの夏」の開催	(社)国際演劇協会 他15件	221,522
(3) 国際交流	チャイルドエイドアジア2014の開催	(N)リトル・クリエイターズ 他9件	43,762
一般事業		86件	837,550
(1) 体育・スポーツ	グランfond富山2013の開催	(N)富山サイクル交流倶楽部 他24件	187,735
(2) 医療・公衆衛生	検診車の整備	(公財)岩手県対ガン協会 他31件	451,991
(3) 文教・社会環境	ゆうばり国際ファンタスティック映画祭の開催	(N)ゆうばりファンタ 他28件	197,824
新世紀未来創造プロジェクト	地元生産農家の訪問及び親子料理教室の開催による食育の推進	中標津町立丸山小学校 他12件	9,241
児童	子どもが幸せに暮らせる社会を創る活動	(福)日本国際社会事業団 他9件	165,214
高齢者	高齢者グループリビングの普及のための活動	(N)いぶりたすけ愛 他7件	35,238
障害者	第13回全国障害者スポーツ大会の開催	(公財)日本障害者スポーツ協会 他31件	518,413
車両整備等福祉活動	訪問入浴車の整備	(福)大館市社会福祉協議会 他76件	236,330
地域振興 (東日本大震災復興支援補助)	子育てママ応援コミュニティカフェの運営	(N)石巻復興支援ネットワーク 他12件	34,562
合計		299件	3,242,070

(単位:千円)

公益財団法人 JKA

〒102-8011 東京都千代田区六番町4番地6英全ビル



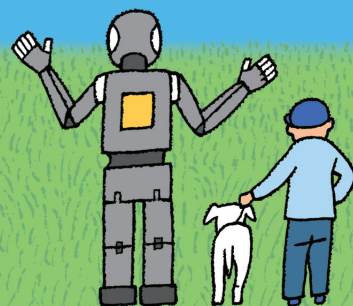
お問い合わせ先

「RING!RING!プロジェクト」ホームページ

<http://ringring-keirin.jp> のお問い合わせフォームから

お問い合わせ下さい。


無限の夢へ、走りだそう。
RING!RING!
プロジェクト
<http://ringring-keirin.jp>



ホームページについて

競輪・オートレースの補助事業について、

皆様に、より一層理解していただき、身近なものと感じてくださるよう、補助事業の愛称を「RING!RING!プロジェクト」としています。

この「RING!RING!プロジェクト」ホームページ内では、

補助事業の申請手続きに関することのお知らせだけでなく、

これまでに実施した補助事業について、

その概要や事業成果をわかりやすく公開しています。

<http://ringring-keirin.jp>